

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

日本児童文学の代表作の中から幾つかの作品を選択して教材とします。子どもは、世界を分析したり合理的に解釈したりする力は未発達な部分がありますが、恣意的な分析・合理的な解釈の度が低いからこそ、かえって見えてくるもの・認識できるものがあると思われます。その意味で、子どもを対象として創作された児童文学には、大人には見えない貴重な世界が描かれていると考えられます。特に異界という視点は、重要な世界認識の転換を読者にもたらしものと考えられます。

この授業では、授業担当者が過去に中学・高校の教員であった実績を生かして、日本近現代の歴史を背景に日本近現代児童文学の流れ、日本近代文学の流れ、海外児童文学の流れ等を視野に入れながら、代表的な児童文学作品を読み講義します。基本的に講義形式で行いますが、発表形式も取り入れ、毎回作品について全員がコメントを発表します。学外施設見学も行います。

授業計画

第 1 回	ガイダンス、児童文学史概観
第 2 回	小川未明『赤い蝋燭と人魚』『金の輪』
第 3 回	『赤い鳥』掲載作品より芥川龍之介『杜子春』『蜘蛛の糸』（小学校・中学校・高等学校国語の復習）
第 4 回	濱田廣介『泣いた赤鬼』『龍の目の涙』（小学校国語の復習）
第 5 回	宮澤賢治①『注文の多い料理店』『どんぐりと山猫』（小学校国語の復習）
第 6 回	宮澤賢治②『グスコブドリの伝記』他（小学校国語の復習）
第 7 回	宮澤賢治③『風の又三郎』他（小学校国語の復習）
第 8 回	宮澤賢治④『銀河鉄道の夜』（小学校・中学校・高等学校国語の復習）
第 9 回	宮澤賢治⑤伝記
第 10 回	新美南吉『狐』『手袋を買いに』『花のき村と盗人たち』（小学校国語の復習）
第 11 回	戦後の児童文学 1（松谷みよ子・斉藤隆介・安房直子）（小学校国語の復習）
第 12 回	戦後の児童文学 2（佐藤さとる・天沢退二郎）（小学校国語の復習）
第 13 回	童話と絵本（宮田正治『見沼の竜』他）、現代の児童文学（『怪談レストラン』『学校の怪談』）
第 14 回	施設見学 1（『見沼の竜』に基づく周辺見学等）
第 15 回	施設見学 2（国際子ども図書館、東京子ども図書館等）
第 16 回	総まとめ（期末試験）

到達目標

- ①近現代日本児童文学の歴史を学び代表的な作品を読むことから、近現代日本児童文学についての知識と教養を得ることができる。
- ②作品について発表をすることとコメントを書くことで、作品を読んで想像したり考えたりする力を養成することができる。

履修上の注意

毎回、作品についての感想、疑問点、意見、考察などを発表しますので、常に自分で読み考える姿勢で受講してください。また、作品を音読する機会も作りたいと思いますので、音読に慣れることを心がけてください。

遅刻は 20 分以内までとし、遅刻 3 回で欠席 1 回とします。

施設見学は、土日に授業を振り替えて行います。

予習・復習

作品は事前にプリントで配布しますので、授業までに必ず読んで発表内容をノートにまとめてきてください。自分なりの問題意識をもって授業に臨んでください。

評価方法

受講態度・発表・コメント・自主的な発言・施設見学レポート・期末試験（期末レポート）などを、総合的に評価します。

期末試験（期末レポート）40%、課題 30%、コメント用紙 20%、受講態度 10%

テキスト

毎回の授業で、次回の作品のプリントを配布します。

授業概要

古典劇と近現代の代表的な小説作品の映画化を取り上げ、日本文学・演劇の世界を知るとともに、文学とドラマがどのように交わるのかを講義する。古典劇については能・文楽・歌舞伎を鑑賞し、とくに文楽と歌舞伎については、同一作品の上演でどのような差があるのかを検討する。近現代の作品については、漱石・谷崎・三島・村上ら著名作品を映画監督がどのようにアレンジし、自身の世界を作り上げているのかを探っていく。

授業計画

第 1 回	ガイダンス：文学とドラマ
第 2 回	『伊勢物語』と『井筒』②：狂気に近づく情念
第 3 回	『源氏物語』①：「似姿」を求める人々
第 4 回	『源氏物語』②：堀川とんこう監督映画の鑑賞と検討
第 5 回	『曽根崎心中』：物と金銭に支配される社会
第 6 回	『心中天網島』：自己の尊厳へのこだわり
第 7 回	『それから』①：夏目漱石作品の概要と主題
第 8 回	『それから』②：森田芳光監督映画の鑑賞と検討
第 9 回	『細雪』①：谷崎潤一郎作品の概要と主題
第 10 回	『細雪』②：市川崑監督映画の鑑賞と検討
第 11 回	『春の雪』①：三島由紀夫作品の概要と主題
第 12 回	『春の雪』②：行定勲監督映画の鑑賞と検討
第 13 回	『ドライブ・マイ・カー』①：村上春樹作品の概要と主題
第 14 回	『ドライブ・マイ・カー』②：濱口竜介監督映画の鑑賞と検討
第 15 回	『ドライブ・マイ・カー』③：濱口竜介監督映画の鑑賞と検討
第 16 回	期末レポート

到達目標

- 日本の古典劇にどのような特質があるのかを説明できる。
- 近現代の代表的などのような作品を生み出しているのかを語ることができる。
- 文学と劇・映画の間に表現媒体としてどのような差と特徴があるのかを説明できる。

履修上の注意

- 毎時間欠かさず出席すること。
- 私語は慎み、映画鑑賞の妨げになることはしないこと。

予習・復習

- 予習：各時間で取り上げる作品についてあらかじめ学んでおくこと。
- 復習：学習した内容を振り返り、鑑賞した映画・ドラマの内容を忘れないうちに小レポートを書いて提出すること。

評価方法

- 小レポート 70%
- 期末レポート 30%

テキスト

必要な資料は教員がプリントを配布する。

- 教科書名：
- 著者名：
- 出版社名：
- 出版年 (ISBN)：